

都市計画道路 山代栗津線 街路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

加賀市

山代イチマイヨリ遺跡

2022

石川県教育委員会

(公財)石川県埋蔵文化財センター

やましろ
山代イチマイヨリ遺跡

2022

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

例　　言

- 1 本書は山代イチマイヨリ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県加賀市山代温泉19区地内である。
- 3 調査原因是都市計画道路山代栗津線街路整備事業で、同事業を所管する石川県土木部都市計画課（南加賀土木総合事務所）が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は、公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、令和元（2019）年度に現地調査を、令和3（2021）年度に出土品整理、報告書原稿作成および報告書刊行を実施した。
- 5 調査に係る費用は石川県土木部都市計画課（南加賀土木総合事務所）が負担した。
- 6 現地調査の期間・面積・担当は下記のとおりである。

期　間	令和元年7月8日～同年9月4日
面　積	720m ²
担　当	調査部県特定事業調査グループ　熊谷葉月（主幹）、奥座　普（嘱託調査員）
- 7 出土品整理は令和3年度に実施し、国関係調査グループが担当した。
- 8 報告書原稿作成・刊行は令和3年度に実施し、調査部国関係調査グループが担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は澤辺が行った。

第1・3章	澤辺利明（調査部国関係調査グループリーダー）
第2章	新美祥人夢（嘱託調査員）
- 9 調査には下記の機関の協力を得た。

石川県土木部都市計画課、石川県土木部南加賀土木総合事務所、加賀市教育委員会

- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標VII系に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 遺構の名称は、下記の略記号に算用数字を付して表記した。

SB	：掘立柱建物、SE	：井戸、SK	：土坑、P	：柱穴・小穴、NA	：自然流路
----	-----------	--------	-------	-----------	-------
 - (4) 遺物の報告番号は挿図、出土遺物観察表、写真で共通する。
 - (5) 出土遺物観察表には出土遺構、遺物種類、器種等のはか、出土品整理時の図化番号を記載した。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 発掘作業の経過	3
第3節 整理等作業の経過	3
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	7
第1節 概要	7
第2節 検出遺構・遺物	8
第3節 小結	8
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 事業計画と調査区の位置(S=1/10,000)	1	第6図 調査区全体図(S=1/200)、調査区壁土層	
第2図 分布調査の結果(S=1/2,000)	2	断面図(S=1/60)	9
第3図 遺跡の位置	4	第7図 SB1平面図(S=1/100)	10
第4図 調査地周辺の遺跡(S=1/25,000)	5	第8図 SB1断面図(S=1/80)	11
第5図 調査区配置図(S=1/400)	7	第9図 SE1・SK2平・断面図(S=1/40)	12
		第10図 出土遺物実測図(S=1/3)	12

表目次

第1表 調査・整理体制	3	第3表 出土遺物観察表	12
第2表 周辺の遺跡一覧表	6		

図版目次

図版1 遺構1	図版3 遺構3	図版5 遺構5
図版2 遺構2	図版4 遺構4	図版6 遺構6・出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

山代イチマイヨリ遺跡の発掘調査は、都市計画道路山代栗津線街路整備事業に伴い石川県教育委員会(以下、県教委)及び公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(以下、埋文センター)が実施したものである。

都市計画道路山代栗津線は、加賀市山代温泉と小松市栗津方面を結ぶ主要地方道小松山中線のバイパス路線として、また、山代温泉の東側エントランス道路として計画されており、加賀市都市計画マスタープランにおいては市内外地域の快適な連絡性を確保するための地域ネットワーク道路として位置付けられている。工事計画は、車線数を2車線とし、山代地区の人口減少や山代中学校の生徒数の減少に伴い、沿道の歩行者・自転車交通量が減少していることなどを考慮して、歩道幅員を4.5mから

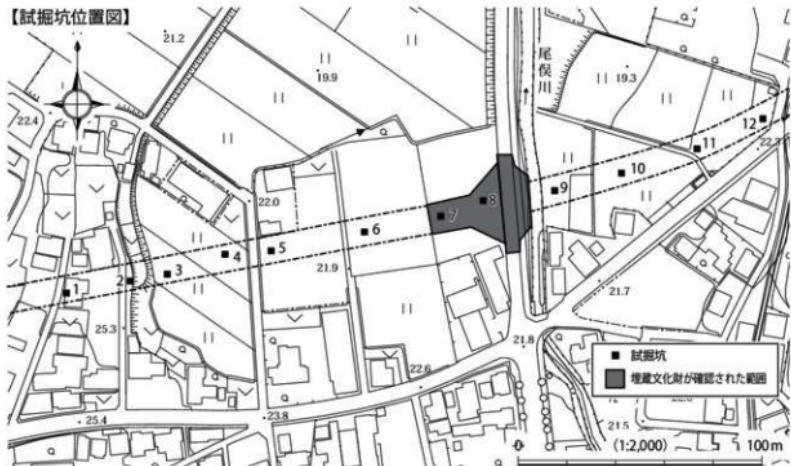


第1図 事業計画と調査区の位置 (S=1/10,000)

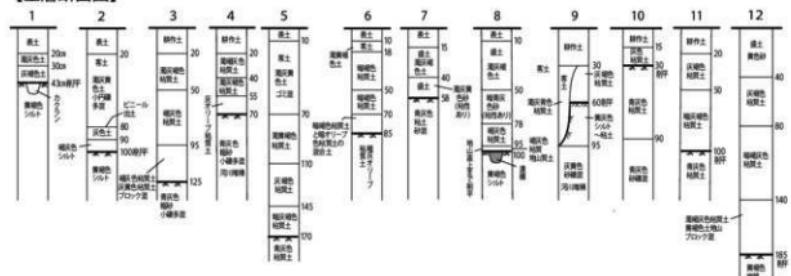
2.5mに縮小し、道路幅員を18mから14mに変更すると共に、終点上野町地内において現道整備済み区間にすりつけるために延長を10m延伸して、L=1,070mとしている。

石川県教育委員会文化財課(以下、文化財課)では毎年、国・県等の関係部局に対し実施予定事業の照会を行い、各事業について埋蔵文化財の保護が図られるよう調整を行っている。上記街路整備事業についても所管の石川県土木部都市計画課および現地工事を担当する石川県南加賀土木総合事務所(以下、南加賀土木)と協議し、用地買収等の準備が整った箇所から順次分布調査を実施し埋蔵文化財の有無を確認することとなった。重機を用いた試掘による分布調査は、南加賀土木からの依頼を受け平成28年6月9日、平成30年8月27日および同年11月5日の3度にわたり実施した。その結果、事業地内において新発見の埋蔵文化財包蔵地を確認し、周辺の小字名より「山代イチマイヨリ遺跡」と呼称した。文化財課は都市計画課および南加賀土木に遺跡の分布を確認した旨報告するとともに、埋蔵文化財の保護が図られるよう設計の見直し等を要請した。以後、協議を継続した結果、現状でルート変更は困難であることから、当該箇所については事前に発掘調査を行い記録保存することとなった。

【試掘坑位置図】



【土層断面図】



第2図 分布調査の結果(S=1/2,000)

第2節 発掘作業の経過(第2・5図)

発掘調査は、事業者からの依頼を受けた県教委からの委託事業として令和元年度に埋文センターが実施した。調査面積は720m²である。調査は調査部特定事業調査グループ熊谷葉月、奥座普が担当した。

南加賀土木からは、平成31年3月1日付け南加土第3749号で文化財保護法第94条第1項に基づく発掘通知が県教委あてに提出され、それに対し県教委は平成31年3月1日付け教文第3513号で発掘調査が必要である旨通知した。埋文センターは、令和元年6月11日付け財埋第89号で県教委あてに発掘調査届を提出、同日付けで県教委から教文第774号により発掘調査届に対する通知を受けた。

6月18日に南加賀土木、文化財課、埋文センターによる現地協議を行い、調査範囲、ユニットハウス設置場所、駐車場所等を確認した。以後、ユニットハウス設営等事前準備作業を進めた。発掘調査区には東側の県道からしか重機が進入できないことから調査区は南北に2分割し、南半部を1区、北半部を2区と呼称し、まず1区を対象として7月8日より重機による表土除去に着手した。7月11日より作業員を投入し、以後、遺構検出、遺構掘削を進めた。主な検出遺構は東半部において縦柱式掘立柱建物1棟を確認した。8月1日には空中写真測量を行い1区の調査を終了した。続いて2区の表土除去のち、発掘調査を進め、8月27日には空中写真測量を実施した。以後、補足調査、調査区の埋め戻しを行い、9月4日には現場を南加賀土木に引き渡し現地調査を終了した。

調査地が大幅に削平を被っていたためか出土遺物は、土師器15点、加賀焼1点を数えたのみである。大型寺警察署長に9月4日付け財埋第198号で埋蔵物発見届を提出。9月18日付け教文第1734号により石川県教育委員会教育長より文化財と認定した旨通知を受けた。

第3節 整理等作業の経過

出土品整理、報告書原稿作成、報告書刊行は事業者から依頼を受けた県教委からの委託事業として埋文センターが実施した。出土品整理は、令和元年度に出土品洗浄を、令和3年度には国関係調査グループが担当して、遺物の記名・分類・接合、実測・トレース、遺構図のトレースおよび報告書原稿作成・刊行を実施した。

○調査体制(平成31(令和元)年度)

調査期間	令和元年7月8日～同年9月4日
業務主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 田中新太郎)
総 括	紹野欽一(専務理事)
事 務	並親利雄(事務局長)
総 務	伊藤 直(総務GL)
経 理	山崎 修(総務G専門員)
調 査	垣内光次郎(所長) 伊藤雅文(調査部長)
担 当	澤辺利明(特定事業調査GL) 熊谷葉月(特定事業調査G主幹) 奥座 普(特定事業調査G嘱託調査員)
作業内容	発掘調査 遺物洗浄

○整理体制(令和3年度)

整理期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
業務主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 徳田 博)
総 括	田村彰英(専務理事)
事 務	北谷俊彦(事務局長)
総 務	北谷祥子(総務GL)
経 理	杉林賢明(総務G主幹)
整 理	伊藤雅文(所長) 川畠 誠(調査部長)
担 当	澤辺利明(国関係調査GL)
作業内容	遺物の記名・分類・接合、実測・トレース 遺構図トレース 報告書原稿作成・刊行

(G: グループ、L: リーダー)

第1表 調査・整理体制

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

山代イチマイヨリ遺跡は石川県加賀市山代温泉19区地内に所在する。加賀市は、旧加賀市と江沼郡山中町が平成17(2005)年に合併して誕生した。石川県の南西端に位置し、北側は日本海に面し、西は福井県あわら市、坂井市、勝山市、東は小松市が隣接する。市域の地形は大きく山地・丘陵・台地・低地に分けられる。市域は面積約305.9km²、周囲98.5kmを有する。人口は令和4(2022)年1月1日現在で64,262人である。

伝統産業として、加賀市が発祥地とされる九谷焼は独特の絵付け様式が全国的に知られ、中山漆器は高い木地挽物技術が現代に継承されている。また、山中温泉、山代温泉、片山津温泉の北陸を代表する3つの温泉街は、小松市の栗津温泉とともに加賀温泉郷として広く知られる。

市域の地形は、東西帯状に広がる江沼平野を中心に北側は海岸線に沿って江沼砂丘、橋立丘陵、橋立台地、小松砂丘、柴山台地、東側は小松市より続く月津台地、南側は加賀山地、能美山地、江沼丘陵が分布し、江沼低地には小松市と福井県の境界に位置する大日山(標高1,368m)を源とする大型寺川と動橋川が流れ込む。同低地は沿岸州により閉鎖した潟湖に、砂と泥を主体とした河川運搬物が蓄積して形成されており、両河川に挟まれた中央部では、江沼丘陵より河岸段丘が双頭状に張り出し、北側の橋立丘陵、橋立台地との間に、いくつかの微高地をもつ三角州を形成する。大型寺川は市域の北西部の福井県境で日本海へ、動橋川は北東部で柴山台地の南に位置する柴山潟に至る。

第2節 歴史的環境

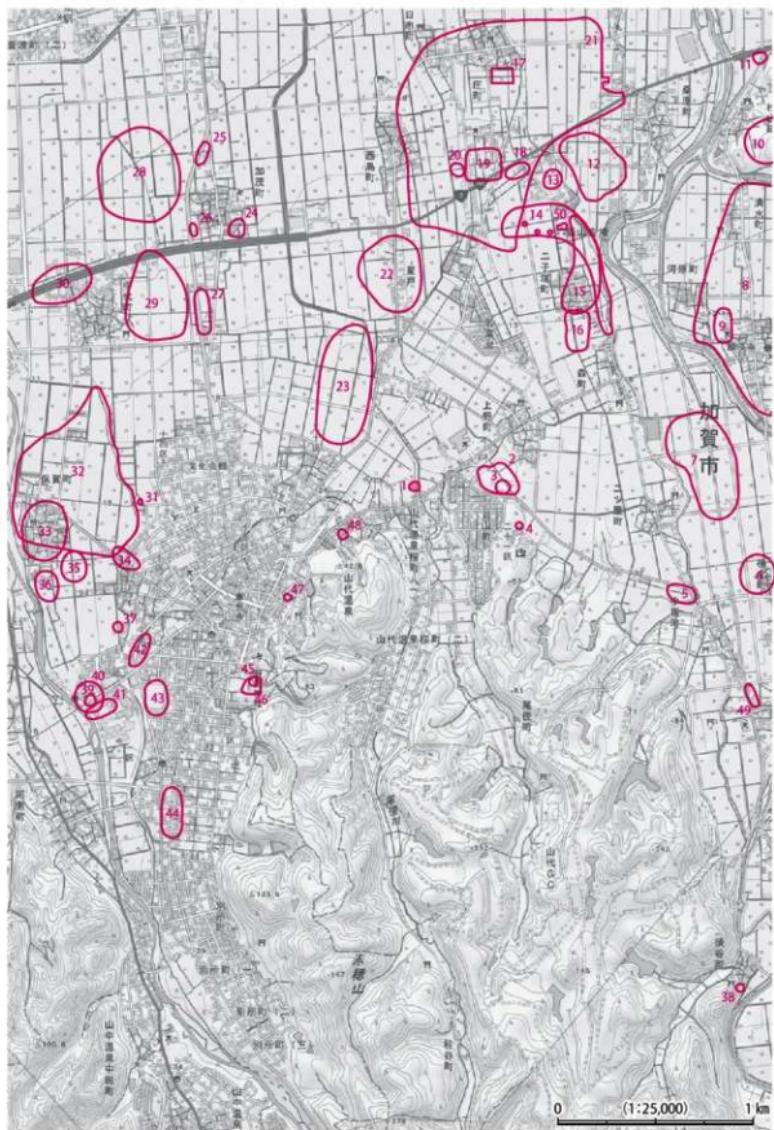
本節では、山代イチマイヨリ遺跡周辺の遺跡を時代別に概観していくこととする。

市域で最古の遺跡は、加賀市北部の日本海に近い橋立台地に位置する宮地向山遺跡である。旧石器時代の石刃や搔器などの出土が確認される。縄文時代になると、橋立丘陵、橋立台地、柴山台地の縁辺部、大型寺川・動橋川流域の河岸段丘、谷底低地に遺跡が分布するようになる。周辺の代表的な遺跡は、津波倉遺跡(13)が挙げられる。動橋川中流域左岸の河岸段丘上に位置する縄文前期の遺跡で、土器や石器が出土している。

弥生時代に入ると、前期末の柴山出村遺跡や隣接する柴山水底遺跡において湿地を利用した水稻栽培の開始が確認され、江沼平野における集落の展開が顕著になる。中期に該当する二子塚東田遺跡(15)では竪穴建物を検出し、後期の猫橋遺跡では炭化米や木製品の出土とともに方形周溝墓を確認した。このことから土木・灌漑技術が発展したことによって、組織形成に至ったことがわかる。また、勅使遺跡(8)では弥生終末期の月影式に該当する壺、壺、有孔鉢などの土器が出土した。松山D遺跡(11)では、掘立柱建物、土坑などのほか、古墳時代の円形の周溝、平安時代の掘立柱建物、中世の溝など



第3図 遺跡の位置



第4図 調査地周辺の道路 (S=1/25,000)

が確認されている。

古墳時代に入ると、江沼低地を囲む丘陵や台地の縁辺部に多くの古墳が築かれる。動橋川流域では、右岸の低丘陵縁辺部で分校・松山古墳群、左岸の段丘部で中・後期の二子塚古墳群(14)が築造される。中でも国指定史跡孤山古墳(50)は中期後半の前方後円墳で全長54mと大型のものである。後円部で検出された組合式箱形石棺からは壯年男性の遺骨とともに獸面鏡や肩甲を伴わない横矧板銅留短甲と横矧板銅留角付冑の甲冑一式、刀、銀製帶金具などの多種多様な副葬品が出土した。これらの内容からこの古墳が江沼地方を治めた江沼臣の墓だと指摘されている。本遺跡の東側には6世紀の後半~7世紀末に築造された国指定史跡の法皇山横穴墓群がある。横穴墓の数は確認された77基も含め合計約200基に及ぶと推定されている。

古代の遺跡は勅使遺跡(8)、庄・西島遺跡(21)などがある。庄・西島遺跡の集落跡は白鳳期の寺院とされる津波倉磨寺(19)を含むことから、政治の中核的な機能を担っていたと指摘されている。そのうち、南端の調査区では、奈良時代後期の鍛冶跡が確認されている。

中世では勅使遺跡(8)、勅使館跡(9)などがみられる。勅使館跡は南北約180m、東西160mを測る館跡で、堀や土塁等で区画された郭は、主郭を中心に南側(南郭)・北側(北郭)と主郭および南郭の東側(東郭)に分けられている。13~14世紀初頭に隆盛したと考えられており、越前焼や瀬戸・美濃焼などに加えて、中国製の青磁や宋銭などが出土していることから広範囲な流通があったことが指摘できよう。

【参考文献】

- 加賀市教育委員会 1997 「山代再興九谷窯跡」 加賀市教育委員会
 加賀市史編纂委員会 1978 「加賀市史 通史 上巻」 加賀市役所
 津波利明^{注16} 2016 「加賀市 加茂キフネ塚遺跡 加茂新高遺跡 加茂ボケ生水ウラ遺跡」 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター
 津波利明^{注16} 2019 「加賀市 塙尾遺跡」 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター
 西田郁乃^{注16} 2003 「加賀市 直下遺跡」 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
 本田秀生 2003 「加賀市 弓羽遺跡」 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
 谷内明夫^{注16} 2013 「加賀市 松山D遺跡」 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	山代イチマイヨリ遺跡	集落	その他	26	加茂新高遺跡	集落	古代
2	上野原岡山陣跡	壁跡	中世	27	加茂ボケ生水ウラ遺跡	集落	弥生・中世
3	上野古墳群	古墳	古墳	28	加茂かがり塙遺跡	散布地	古墳・その他
4	上野シコウ窯跡	窯跡	古代	29	中代B遺跡	散布地	鷹文・古代
5	小坂遺跡	散布地	鷹文	30	中代A遺跡	散布地	古代
6	薬師寺跡	寺院跡	不詳	31	古代古墳	古墳	古墳
7	小坂アリアナ遺跡	集落	古墳	32	保賀C遺跡	集落	古代
8	勅使遺跡	散布地	弥生・古代	33	保賀魔寺	寺院跡	古代
9	勅使館跡	壁跡	中世	34	山代中世墳墓	墳墓	中世
10	松山遺跡	城跡	中世	35	保賀A遺跡	散布地	不明
11	松山D遺跡	集落	弥生・中世	36	保賀道跡	散布地	鷹文
12	二子塚遺跡	散布地	古墳	37	保賀B遺跡	散布地	古代
13	津波遺跡	集落	鷹文	38	須谷横穴墓	古墳	古墳
14	二子塚古墳群	古墳	古墳	39	山城大堀宮古墳群	古墳	古墳
15	二子塚東田遺跡	集落	古墳	40	山城大堀宮遺跡	散布地	鷹文・古墳・古代
16	二子塚ノミヤ遺跡	集落	古墳	41	山代麻寺	寺院跡	不明
17	手塚殿遺跡	城郭	不詳	42	山代ドンド遺跡	散布地	鷹文・古墳・古代
18	桑原遺跡	散布地	古墳	43	山代觀光センター遺跡	散布地	鷹文
19	津波魔寺	寺院跡	古代	44	山谷果樹園遺跡	散布地	鷹文
20	西島遺跡	散布地	古代	45	衛王院中世墳墓	墓	中世
21	庄・西島遺跡	散布地	古代	46	衛王院裏遺跡	散布地	古代
22	上野遺跡	散布地	古代	47	山代温泉古墳	古墳	古墳
23	山城新遺跡	散布地	古代	48	山代再興九谷窯跡	窯跡	近世
24	加茂フルードウ遺跡	集落	古代・中世	49	水田丸遺跡	散布地	古代・中世
25	加茂キフネ塚遺跡	集落	發生・中世	50	翼山古墳	古墳	古墳

第2表 周辺の遺跡一覧表

第3章 調査の成果

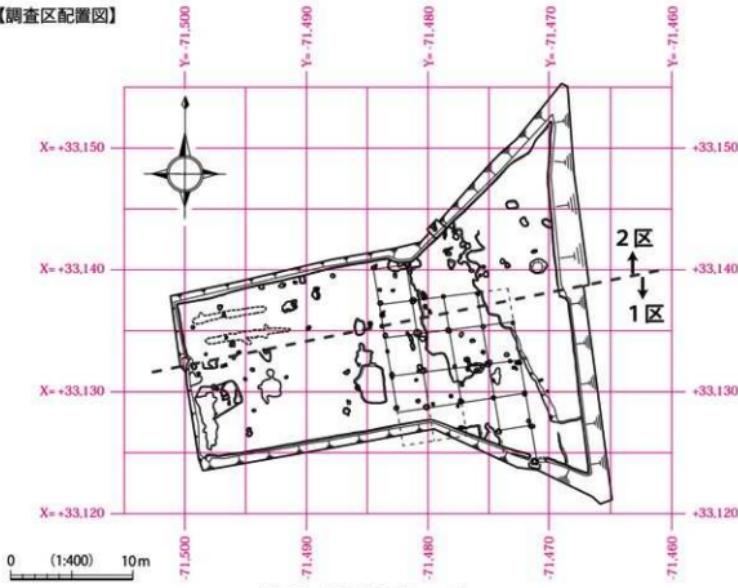
第1節 概要(第5・6図)

概要 遺跡は、加賀市山代温泉の北東端、大型寺川と動橋川間に形成された丘陵内部を北流する尾尾川左岸の段丘裾部に立地する。調査区は、東西延長34m、調査区西端では幅15m、交差点となる東端では幅を広め35mを測り、面積は720m²である。排土置き場の都合から調査区は南北に2分割し、南側を1区(400m²)、北側を2区(320m²)と呼称。1区→2区の順に発掘調査を実施した。

調査区内は全般には場整備等により削平を被っていた。特に西半部では耕作土直下で地山土が現れ(第6図北壁断面A)、2区西側で並走する2条の溝はほ場整備時の重機のキャタピラ跡であり、耕耘機の鉄輪跡も各所で残っていた。

基本層序 調査区西端で地表標高20.87m、東端で21.28m、遺構検出面標高は西端で20.46m、中程で20.56m、調査区東端部は尾尾川により削平を受けていると見られ、地山は緩く下り東端で20.17mを測る。基本層序を調査区南壁に設定した第6図断面Cでみると、ほ場整備による耕作土・客土：1・2層(厚さ約15cm)。その下位に旧耕作土：3層(6cm)。地山土まで削平される箇所が多い中、断面Cではその下で遺物包含層かとみられる4層(5cm)がわずかに遺存した。地山土は本箇所では粘質土からシルトであるが、北壁に設定した断面Aでは砂質で礫を多く含む土壤が堆積するなど場所によって一様ではない。

【調査区配置図】



第5図 調査区配置図(S=1/400)

第2節 検出遺構・遺物(第5~10図)

SB1 調査区東半部に位置する総柱式の掘立柱建物である。建物の南北は調査区外に延びる可能性があり、東側は尾保川によるとみられる削平を受けており柱穴の有無は不明である。調査区内においては一応、南北3間(以上)×東西4間を想定する。北西隅に1間×1間(以上)の張り出しがあるとみており、また、他の柱穴より大型で整った形状のP24もSB1の柱穴とみるなら、対角の南東角にも建物が延びていた可能性がある。北辺に位置するP61のはば2間北にP66とした柱穴が存在するが、これについてはSB1付随のものか、別建物に伴うものかは判断しかねる。SB1の建物規模については、南北は断面H箇所で長さ11.40m、柱間は北から2.71m、3.18m、2.75m、2.70m、東西は断面E箇所で長さ10.49m、柱間は西から2.58m、2.72m、2.72m、2.54mを測る。南北軸方位はN-8.4°Wである。柱穴掘方は平面不整円形のものが多く、径30~50cm、深さ10~40cmを測り、P6・9・38などでは直径15~20cm程の柱痕跡が観察された。柱掘方覆土は黒褐色粘質土を基調とするものが多い。第10図1~4はSB1を構成する柱穴からの出土遺物である。いずれもロクロ土師器で底部には回転糸切り痕が残る。1は口径15.6cmの壺である。2・4は柱状高台を持つ皿と見られる。3は壺である。これらはおおむね藤田編年⁽¹⁾中世Ⅰ期(11世紀中葉~12世紀中葉)の所産とみられる。SB1は該期の遺構とみられる。

SE1(SK1) 調査区中程に位置する。調査時はSK2としたものの、上半は粘質土地山(A・B層)であるが、下半は砂礫層(C層)および常に湧水をみたことから井戸と判断した。SB1の北西側に接しており、建物に付随する井戸の可能性がある。平面隅丸長方形をなし、長径1.21m、短径84cm。深さ72cm。内部下半は砂礫地山土が崩落したためか袋状に広がる。底面は比較的平坦である。出土遺物なし。

SK2 SB1の北東角に位置する。平面隅丸不整方形をなし東側がやや張り出す。検出面で長径1.39m、短径1.19m。隅丸方形を呈する底面は一辺78cm。断面は楕形をなし、現状で深さ36cmを測る。出土遺物なし。当該箇所は河川等により削平を被り調査区西半部より50cm以上低くなってしまい、本来は1m程度の深さであった可能性がある。性格は不確定だが、井戸の可能性が考慮される。

SX1 SB1に重複して位置する。不定楕円形を呈し、長径135cm、短径86cm。断面は楕形を呈し、深さ24cmを測る。出土遺物なし。性格不明。

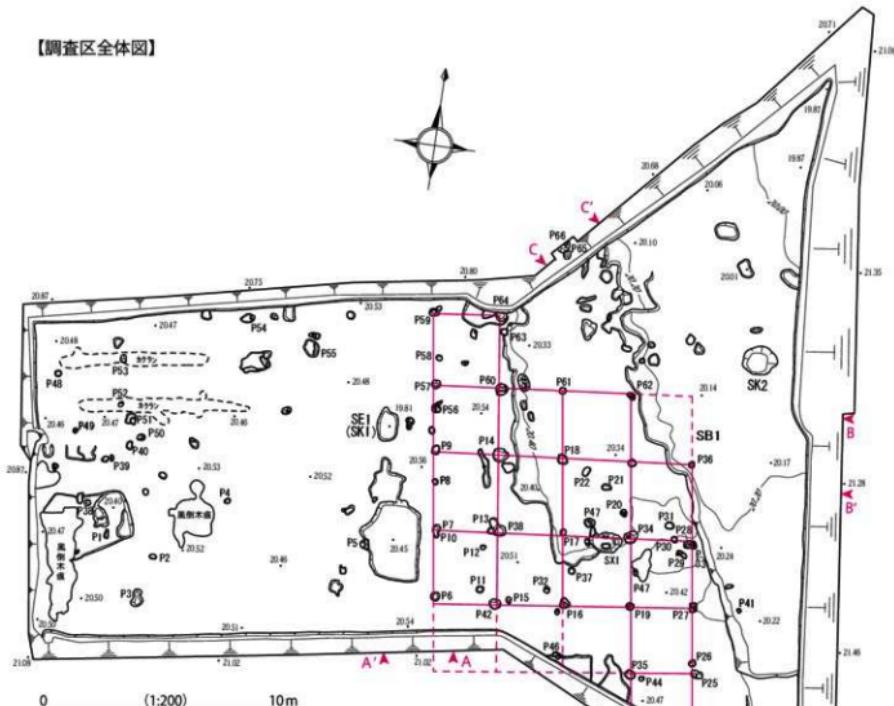
その他遺物 第10図5はSB1西辺に沿うP56出土であり、柱状高台を持つ土師器皿かとみられる。6はSB1に重なるP63出土である。柱状高台を持つ土師器大型壺で、底径8.6cmを測る。7はSB1北側の調査区北壁に接して位置するP65出土の土師器壺。5~7は中世Ⅰ期の所産とみられる。8は2区遺構検出時に出土した口径41.8cmの加賀焼甕である。那谷ダイテンノウダニ窯の製品とみられ、垣内編年⁽²⁾Ⅲ期(13世紀中頃)に位置付けられよう。

第3節 小 結

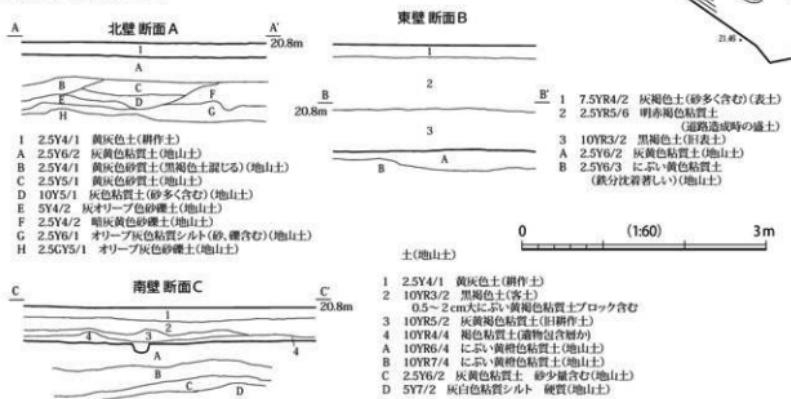
調査の結果、平安時代後期の集落を確認した。遺構は調査区東半部で3間(以上)×4間の総柱式掘立柱建物(SB1)1棟、建物に付随するとみられる井戸1基や土坑1基、小穴を検出した。柱穴出土の土師器から掘立柱建物には11世紀中葉~12世紀中葉の年代が与えられる。ほか13世紀中頃の加賀焼の甕が出土した。遺構が希薄な調査区西半部については広場的な空間となっていた可能性が指摘され、調査区北壁際の別建物の存在をうかがわせる柱穴などからは、掘立柱建物は尾保川左岸の段丘裾部にあって、河川に沿った南北方向に配置されていたことが推定される。

【参考文献】

- (1)藤田 邦雄 1997 「第2章第2節 中世加賀国の中土師器様相」『中・近世の北陸』 北陸中世土器研究会
- (2)垣内光次郎 2001 「第1編考古資料 第1章中世の焼物生産」「新修小松市史」資料編3九谷焼と小松瓦 石川県小松市

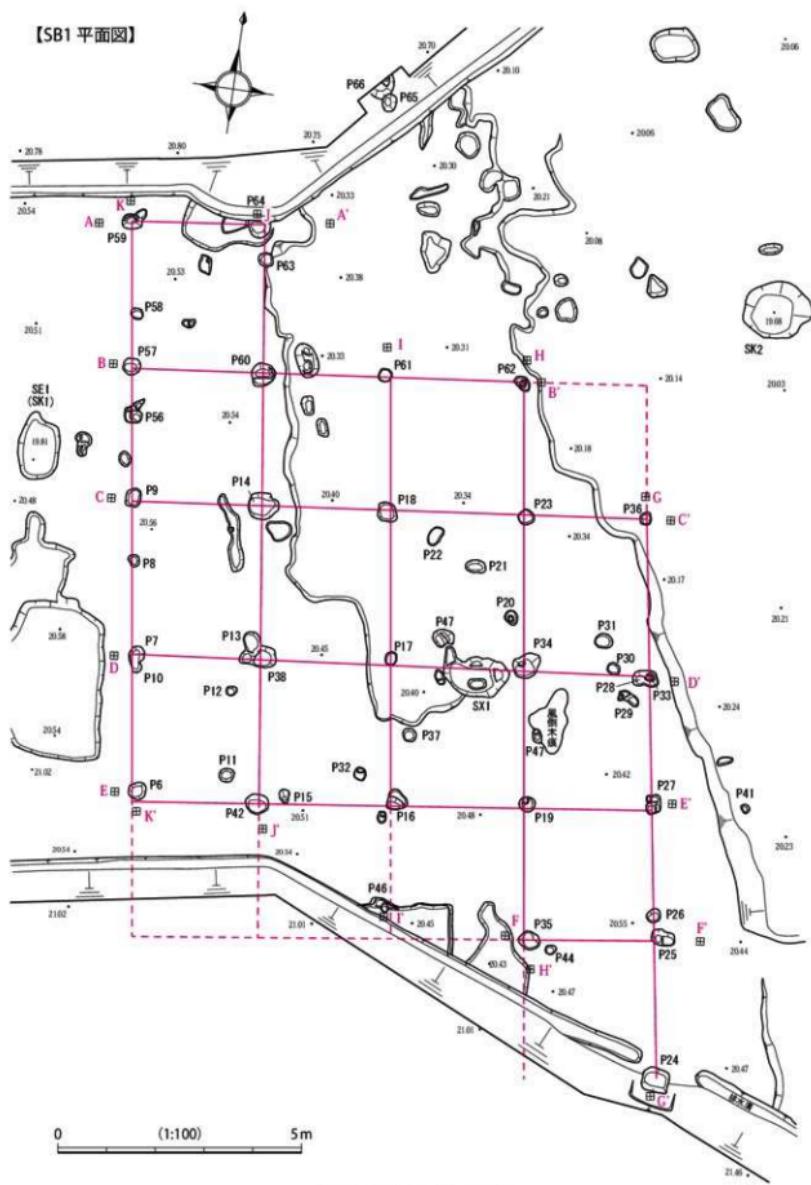


【調査区壁土層断面図】

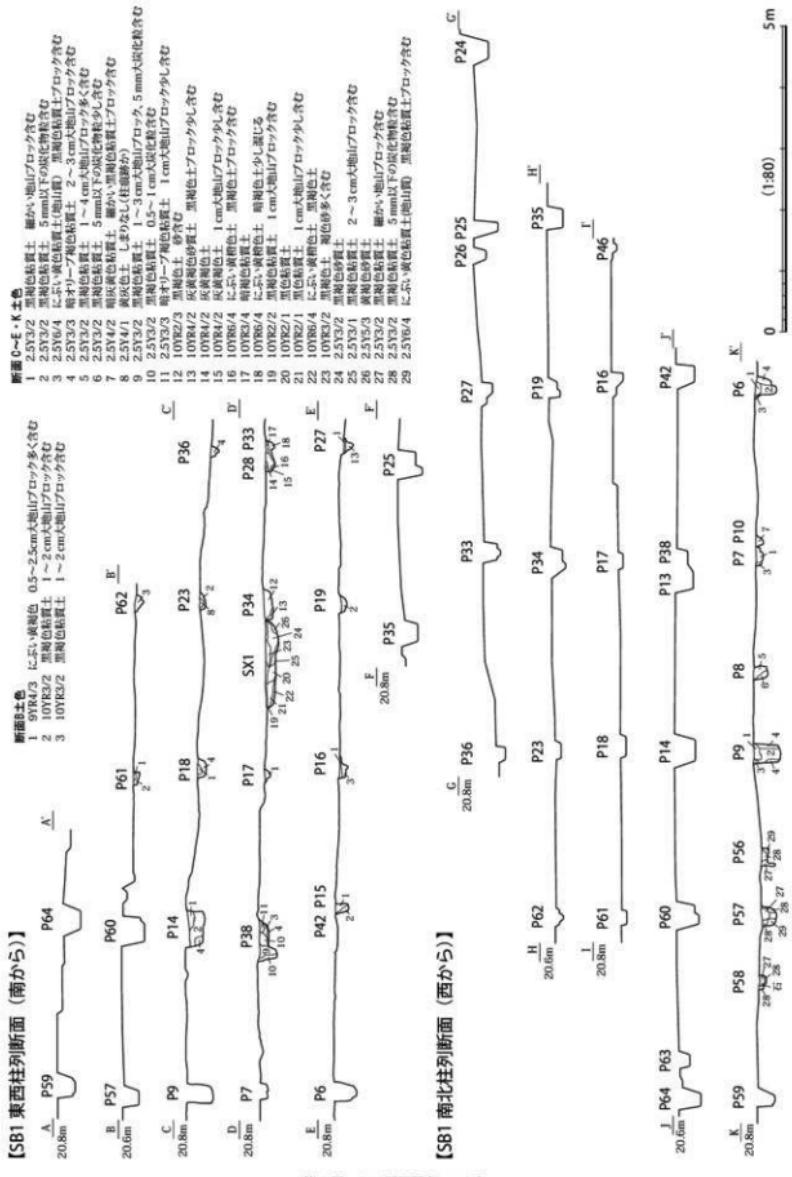


第6図 調査区全体図(S=1/200)、調査区壁土層断面図(S=1/60)

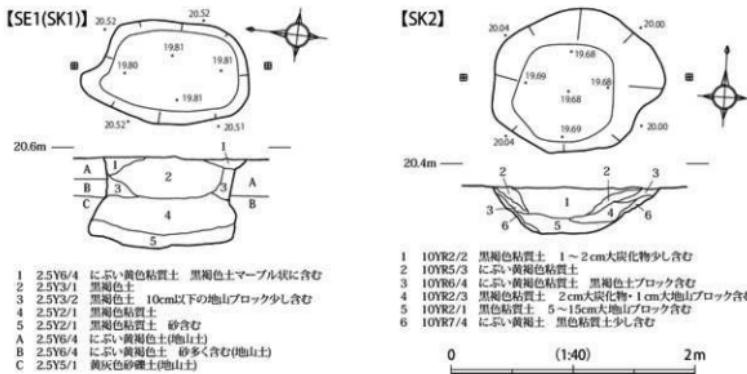
【SB1 平面图】



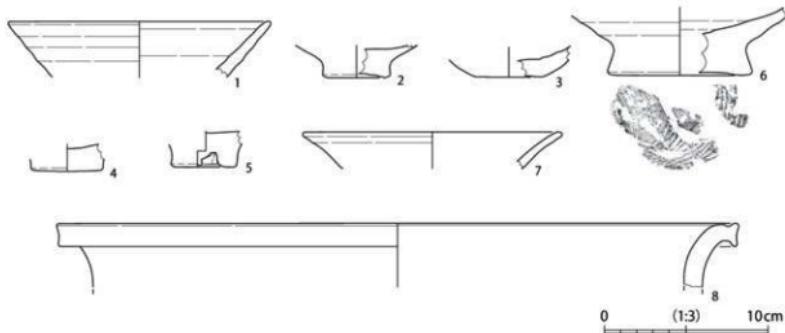
第7図 SB1平面図(S=1/100)



第8図 SB1断面図(S=1/80)



第9図 SE1・SK2断面図(S=1/40)



第10図 出土遺物実測図(S=1/3)

報告番号	地区	出土遺構等	時代	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調(内) 色調(外)	地 土	性 成	調 整 (内) 調 整 (外)		遺存率	備 考	固 化 番 号
												調 整 (内)	調 整 (外)			
1 1区	SB1 P6	平安 土器器	壇	15.6	-	(2.3)	粗砂多、石英微、 角閃石微	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁部 口縁部	1/12	0001				
2 1区	SB1 P9	平安 土器器	壇	-	3.6	(2.0)	透黄褐 粗砂多、赤色粒微、 石英微、角閃石少	良	ロクロナデ ロクロナデ、回転糸切り	底部 底部	3/12	柱状高台	0006			
3 1区	SB1 P14	平安 土器器	壇	-	4.2	(1.9)	透黄褐 粗砂多、赤色粒微、 石英微、角閃石微 にぶい	良	ロクロナデ ロクロナデ、回転糸切り	良	0007					
4 1区	SB1 P14	平安 土器器	壇?	-	4.2	(1.7)	透黄褐 粗砂多、石英微、 角閃石少	良	ロクロナデ ロクロナデ、回転糸切り	底部 底部	1/12	0008				
5 2区	P56	平安 土器器	壇?	-	3.8	(2.2)	透黄褐 粗砂多、赤色粒少、 石英微、角閃石微	良	ロクロナデ ロクロナデ、回転糸切り	5/12	柱状高台	0005				
6 2区	P63	平安 土器器	壇	8.6	(4.2)	にぶい にぶい にぶい	粗砂多、石英微、 角閃石微	良	ロクロナデ ロクロナデ、回転糸切り	底部 底部	4/12	柱状高台	0003			
7 2区	P65	平安 土器器	壇	16.0	-	(3.5)	にぶい にぶい にぶい	粗砂多、赤色粒少、 石英微	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁部 口縁部	1/12	0004			
8 2区	透構 棲出	中世 陶器	壇	41.8	-	(4.0)	粗砂多、細砂多、黑色灰 泥灰	良	ヨコナデ ヨコナデ	口縁部 口縁部	1/12	加賀鏡	0002			

第3表 出土土器観察表



調査地遠景（2区調査時、西から）



調査地遠景（1区調査時、北から）



調査地遠景（2区調査時、東から）



調査区全景（俯瞰）

遺構3



1区 完掘状況（東から）

図版3



2区 完掘状況（東から）



SB1 南半部 完掘状況（北から）



SB1 P6 遺物（報告No.1）出土状況（西から）



SB1 P6 完掘状況（北から）



SB 1 P7・10 完掘状況（西から）



SB 1 P9 遺物（報告No.2）出土状況（西から）



SB 1 P9 完掘状況（西から）



SB 1 P14 完掘状況（北から）



SB 1 P18 完掘状況（北から）



SB 1 P23 完掘状況（北から）



SB 1 P24 検出状況（北から）



SB 1 P24 完掘状況（北から）



SB 1 P34 完整状況 (南から)



SB 1 P35 断面 (南から)



SB 1 P57 断面 (西から)



SB 1 P59 断面 (西から)



SE 1 (SK 1) 断面 (西から)



SE 1 (SK 1) 完整状況 (西から)



SK 2 断面 (南から)



SK 2 完整状況 (北から)



SX01 実掘状況（南から）



P56 遺物（報告No.5）出土状況（東から）



P63 遺物（報告No.6）出土状況（東から）



調査区北壁断面A（南から）



調査区東壁断面B（西から）



調査区南壁断面C（北から）



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かがし やましろいちまいよりいせき						
書名	加賀市 山代イチマイヨリ遺跡						
副書名	都市計画道路山代粟津線街路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	澤辺利明、新美祥人夢						
編集機関	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL(076)229-4477 FAX(076)229-3731						
発行機関	石川県教育委員会、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター						
発行年月日	2022年3月22日						
所取遺跡名	所 在 地	コード	北 緯	東 經	発掘期間	発掘面積	発掘原因
山代イチマイヨリ遺跡	石川県 加賀市 山代温泉郷19区地内	市町村 17206	643300	36度 17分 45秒	136度 22分 15秒	20190708 → 20190904	720m ² 記録保存 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項
山代イチマイヨリ遺跡	集落跡	平安時代	掘立柱建物、井戸、土坑			土師器、加賀焼	
要約	<p>平安時代後期の集落を確認した。遺構は調査区東半部で3間(以上)×4間の楕柱式の掘立柱建物1棟、建物に付随するとみられる井戸1基、土坑1基、小穴を検出した。柱穴出土の土師器から掘立柱建物には11世紀中葉～12世紀中葉の年代が与えられる。(ほか13世紀中頃の加賀焼の甕が出土した。</p> <p>遺構が希薄な調査区西半部については広場的な空間となっていた可能性が指摘され、調査区北壁際の別建物の存在をうかがわせる柱穴などからは、掘立柱建物は尾保川左岸の段丘裾部にあって、河川に沿った南北方向に配置されていたことが推定される。</p>						

加賀市 山代イチマイヨリ遺跡

発行日 令和4(2022)年3月22日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印 刷 田中昭文堂印刷株式会社